Title: 教団新報4888最終.eca Page:1 Date: 2018/09/11 Tue 14:26:35

教団新報

定 価 1部144円（本体133円〒共206円）
予約購読料 1年分 〒共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 秋山 徹
編集主筆 渡邊 義彦
印刷所 株式会社きかんし

夏の特別プログラムを各教区開催

北海・奥羽・東北三教区 保養プログラム

「あなたがたに味方がいます」と伝えるために

上、さわやかな木陰でくつろぐ
下、歓迎会で、心尽くしの料理が並ぶ

8月2～7日「心と体をリラックス第12回親子短期保養プログラムin北海道」を札幌で行った。東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の影響を逃れ、6家族21名（子ども12名）と引率者2名が北海道クリスチャンセンターに滞在、北海教区東日本大震災支援委員会が準備したプログラム等を楽しんだ。

北日本三教区（北海・奥羽・東北）は定期的に「北日本宣教会議」を開催しているが、2011年秋の会議で「保養プログラム」が提案された。三教区で準備し翌年3月、第1回が札幌で行われた。第6回からは東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」が主催に加わり、実務の中心を担っている。滞在先として北海道の他、沖縄教区、九州教区の協力を得て沖縄、奄美でも行われてきた。

本来「保養プログラム」とは、成長期の子どもたちが放射能の影響のない環境で数週間から数ヶ月を過ごすことで健康の確保をはかる事業のことだ。しかし、現在の日本では子どもたちが長期にわたって家族と離れて生活する場を設けることは難しく、1～2週間、また家族同伴が現実的だ。短期間では医学的な効果はさほど期待できないだろうが、当初考えられていた以上に「親子短期保養プログラム」は意義深いものとなっている。

参加者のほとんどはキリスト者ではない。数日の滞在期間中、参加者が見知らぬ環境で少しでもリラックスできるよう現地の担当者は準備する。「ぜひ多くの人と出会ってください。そして北海道の私たちの課題も知ってください」と願って、現地の諸教会の面々が手作りの食事を用意し、教会の青年や子どもたちが一緒に遊び、観光地も案内する。なにより放射能の不安なく野外で草に触れ、土を踏み、水にさわり、風に吹かれる。

毎回大切にしているのが、親たちの「分かちあい」の時間。放射能の不安を抱えての日常生活の苦しさ悩み悲しみを打ち明け語り合う。家族の葛藤、周囲との軋轢、経済的困難、行政への不信、そして子どもたちへのせつない負い目と不安…。少なからぬ親たちが「こんな心の内を語るのは初めて」と涙する。

プログラムの終わりに、「不安なく食べ、飲んだ」、「草地で転がる子どもの姿がうれしい」、「畑で泥まみれになって感激」といった感想と共に、「赤の他人にどうしてこんなに親切にしてくれるのか」との感謝の言葉も。主のねぎらいを聞く瞬間だ。「保養プログラム」を通し「あなたがたには、見えないけれど味方がいます」と伝えたい。だが、教団や海外教会からの財政支援が終了し、今後もこのプログラムを継続できるか不透明だ。それでも何らかの形で実施できる道を探っていきたい。

（久世そらち報／北海教区東日本大震災支援委員会委員長）

東海教区ユースキャンプ

青年修養会に中高生を加えて初めて開催

8月10～11日、東海教区ユースキャンプ2018（中高生・青年の集い）が国際青少年センターYMCA東山荘において開催された。

これまで東海教区では青年修養会を39回に亘って開催してきたが、中高生の集いは行われていなかった。2017年度に教団において行われたリフォユース500中高生大会・青年大会に教区の教会に所属する中高生や青年たちが参加したことを受けて、継続的な信仰の交わりが必要である、という話し合いを経ての開催であった。教区の青年専門委員会と教育部が責任を担った。

今回は、教団からの伝道方策交付金を参加費補助に充て、若い世代が参加しやすいように配慮することができた。中高生8名、青年5名、引率者・教職22名、合計35名の参加であった。

講師は堀地正弘牧師（静岡草深）。「であい～わたしが洗礼を受けたわけ」との主題に沿って、学生時代に聖書に触れ、社会人となり教会へ導かれて、礼拝の中でイエス・キリストと出合った経緯を話された。様々な出来事の中で「主は生きておられる」との確信を与えられて洗礼へと至った、という力強い救い主の証しであった。

講演を聴いた参加者は、クリスチャンホームで育つ中学生から有職の青年まで幅広い年代層であったが、10代から20代、それ以降の歩みの中で、最後は神にしっかりと捕えられるのだ、というメッセージをそれぞれが真摯に受け止めた様子であった。

一日目の夕方や夜、二日目の朝には様々なレクリエーションを行い、親睦を深めた。ゲームや賛美、敷地内での聖書クイズラリーやグループ毎の即興劇披露など、皆が主体的にプログラムに参加し、密度の濃い時間を過ごした。講演を受けてのグループトークは年代別に分けられ、教会生活や洗礼・信仰告白の事柄など、各自の信仰について真剣に話し合う場面もあった。教職を交えた青年たちの懇談は深夜まで続いた。

二日間と限られた時間ではあったが、開会礼拝から始まり、朝拝、閉会礼拝まで、若い魂が御言葉に多く触れる良い機会であった。日程や会場の問題、教区の全教会への理解の浸透など、課題は残されているが、各委員会では次に向けての話し合いが早速持たれようとしている。

最後に、一人の参加者の感想を紹介する。「…私の主観では、メンバー同士の交わりが浅くならず、ちょうど良い規模だと感じました。開会礼拝からはじまり、今まで幾度となく考えてきた人間の生きる意味について改めて考えさせられました。これからの人生、神様は私ができることを与えてくださるだろうという期待が持てました」。

（大橋 新報／東海教区青年専門委員書記）

幅広い年代が一堂に集って

荒野の声

この夏も伝道プログラムに、教会、地区、教区、またボランタリーな伝道グループで励まれたことと思う。本号もそのわずかでも伝えたいと願い、それぞれ執筆をお願いした。協力に感謝する。▼仕える教会でも台風の影響で出発直前まで宿舎への道路が封鎖されやきもきしたが、期間中は天候に恵まれて教会学校の子供たちとキャンプに行ってきた。その他にも幼稚科のデイキャンプ、中高生の夕涼み会、幼稚園のお楽しみ会と夏休みも特別プログラム目白押しだった。▼また今年は、はじめて夏期伝道実習生を迎えた。自分もいかに多くの祈りをもって実習に迎えてもらっていたのか実感した。派遣されてきた神学生から教会も伝道への多くの刺激をもらったことは、ことのほか新鮮だった。ふだん出席神学生のいない教会であればなおさらのことだろう。▼そのような中で何とか数日休暇を取った。外からの連絡を極力絶とうとしたけれども難しい。休暇は海外へ、教会に事が起れば一切を協力牧師に一任という休みの取り方も聞くが。▼主は、嵐に翻弄される舟の中でも枕して休んでおられた、と言う。すべてを神に委ねるところに本当の安息があることを教えられる。

Title: 教団新報4888最終.eca Page:2 Date: 2018/09/11 Tue 14:26:38

大阪北部地震 被害報告

高槻・茨木春日丘、大きな被害

6月18日午前7時58分、高槻市を震源とするマグニチュード6・1、震度6弱の大阪北部地震が起こった。大きな地震が起こり得ることは頭では理解していたが、自分の住んでいる街を震源とする大きな地震の揺れを経験すると少し慌てた。1、2週間程度で地域全体としてのライフラインの回復が行われ、余震もどうにか収まり、2ヶ月を経て地域も落ち着きを取り戻してきた。

大阪教区では地震当初から諸教会・伝道所の安否確認・被害状況の確認を行った。大阪北部の教会・伝道所を中心に食器が割れた、本が散乱、花瓶などの破損で水浸し等の被害が多数あった。

高槻教会、茨木春日丘教会が大きな被害を受けた。高槻教会は礼拝堂の建物に大きなダメージを受け、大きな改修を余儀なくされている。また茨木春日丘教会は、礼拝堂の大きなガラスが壊れ、足場を組んでの修理がなされた。またのちに、壁が壊れて不安定になっている教会も判明し対応に当たっている。

京都・大阪・兵庫の関西三教区で、地震の翌々日に、大阪北部地震の対応を話し合い、状況を把握した。とても心強い思いがした。また教団は加藤誠幹事を送り、台湾基督長老教会からの見舞金が届けられた。いろいろな教区から見舞金、支援の申し出をもらった。教団・諸教区の温かい交わりの中にあることに大きな励ましをもらった。心から感謝する。

高槻から大阪、高槻から京都への電車に乗っていると今もブルーシートがかかっている家が見られる。今も悩みの中にある人々がいる。大阪北部地震のあと、西日本豪雨の災害が起こった。被災地での働きのうえに、神様の守りがあるようにと祈る。

（小笠原純報）

茨木春日丘教会

西日本豪雨 被害報告

教派を超えた支援活動を展開

6月28日から7月8日の西日本豪雨では、東中国教区（倉敷市真備町）、西中国教区（広島市安芸区他、呉市天応地区他、三原市）、四国教区（大洲市、宇和島市吉田町、三間町）などに被害があった。幾つかの教会・伝道所が床上浸水に遭ったが、各教区・地区の支援によって復旧が進められた。しかし教会の建つ地域の復旧には目途が立たず、信徒宅を含めて支援活動が続いている。今回の救援の特徴は、教団独自のベースを設置せず、超教派の支援活動の中で教団の教会、教職、信徒が活動していることだ。教団は、各教区・地区（分区）を通し支援活動に協力してゆく。

倉敷市真備町では多くの家屋が浸水した。東中国教区は、「岡山キリスト災害支援室」のもと「せとうちYMCA」などキリスト教支援団体と共に、家屋清掃など質の高いワークを行っている。活動は10月までとしているが、さらに長期に亘ると思われる。9月からは台湾基督長老教会のワーカーが岡山市の平島地区にて活動を開始する。

呉市天応地区の活動は、超教派の牧師会が牧会の働きとして、「呉ボランティアセンター」を立ち上げ、天応地区や安浦地区にボランティアを派遣している。家屋の奥まで真砂などが堆積しており人手では対応できず、重機による作業が続けられている。早い段階から地元の社会福祉協議会と連携し、地域の信頼を得た活動が行われている。西中国教区もこの働きを受け止め、他の被災教会や地域同様支援する。8月10日で区切りをつけたが、なお週2日を目途に支援を続けている。

宇和島市伊予吉田町、三間町にある教会が被災したが、四国教区南予分区の教師、信徒による復旧が図られた。信徒宅の支援活動も行われている。宣教協約にある在日大韓基督教会新居浜教会、同関西地方会からもボランティア派遣があり、宿泊場所に大洲教会信徒の関係で地元のユースホステルが提供された。超教派の支援組織「四国キリスト災害支援会」とも連携しつつ、活動が続いている。

（秋山 徹報）

▼宣教委員会▲

宣教方策会議をまとめ

第5回宣教委員会は7月2～3日に、京都教区・洛陽教会を会場にして開催された。その週末に起こる関西豪雨の前触れのような雨の中での委員会であった。豪雨被災地に心からお見舞い申し上げる。議事に先立ち、栗原清委員司式・説教による礼拝を共にし、引き続き会議室に場所を移して、報告、協議がなされた。

前回委員会から引き続き、宣教方策会議でのワールドカフェで出された意見を担当者が分析、報告し、協議した。基本的に宣教方策会議の報告には、無理にまとめるのではなく列記してアイデアを提供することにした。それによって次の宣教方策会議の教区報告に反映されることを期待する。また改訂宣教基礎理論についての意見も出されていたことを受けて、宣教委員会として、どう受け止めていくか、総括が求められることも確認した。

「牧会者とその家族のための相談室」については、今総会期中の設置を常議員会に提案することを決め、委員構成案を挙げた。

青年伝道についての教育委員会からの提案を受け止め、宣教方策会議でも多くの意見が出たことを踏まえて支持していくことにした。特にSCF主事を青年担当として教育委員会の構成員とすることを求めていきたい。

「統一原理問題連絡会」から名称を「日本基督教団カルト問題連絡会」に変更することが報告され、今日の課題への取り組みを理解して、委員会としても変更を受け入れることとした。

それらの協議、可決の後、教団総会に向けて、今総会期の宣教委員会の評価をし閉会した。

（岸 憲秀報）

▼信仰職制委員会▲

教団離脱について答申

第5回信仰職制委員会が、7月30～31日に全委員と秋山徹総幹事と道家紀一担当幹事の出席のもと、教団会議室にて開催された。前回議事録承認後、委員による『教団教師について』の発表を聞き協議、教師に関する共通認識を確認した。その後「諮問」1件と「問い合わせ」4件を取り扱った。議事内容は以下の通りである。

《諮問》は、東京教区から「教規施行細則12条に規定された教会が、教団を離脱する場合、当該教会が教区に対して行うべき手続きと、教区が対応すべき手続きについて、また伝道所の離脱について」であった。

《答申》は「教会が教団を離脱する場合、当該教会の教区に対する手続きはありません。教区が当該教会に対してとるべき手続きもありません。ただし、教規第66条⑥に基づく教区による指導が事前になされることが望ましいと考えます。伝道所は、教規第120条②により、所属教区または関係教会の監督指導と援助を受ける必要があり、伝道所が単独で教団を離脱することは想定されていません」である。

《問い合わせ》は、①小児洗礼者の転籍に関する件、②教会が合併した場合の教師の身分に関する件、③補教師である教務教師が正教師の按手を受ける教区に関する件、④代務を担っている無任所教師に関する件であった。各々に当委員会の見解を伝えた。その中で教団全体に関わるものとしては、②の「教師が主任担任している状態で教会が合併手続きをすることをもって、教師も辞任手続きを為したと判断してよいか?」という《問い合わせ》に関しては、「合併手続きと併せて、教師の身分を確認する必要がある」ことを見解とした。また③に関しては「教務教師はその本務の所属する教区（支区）で按手を受けることが望ましいが、他の教区で教会担任を兼務している場合は教区（支区）議長間の話し合いによって按手礼式執行の教区（支区）を定めることが出来る」と答えた。

最後に『教団総会報告書』をまとめ、次期委員会への申し送り事項を決定して委員会を終えた。

（武田真治報）

「西日本豪雨緊急救援募金のお願い」領収書発行についてお知らせ

これまで皆さまから頂戴した献金には、漏れなく領収書を発行しておりましたが、郵便料金値上げに伴い、これを原則廃止とさせていただきます（第40総会期第2回常議員会にて了解済）。郵便払込取扱票をご利用になった際に振替払込請求書兼受領証が残りますので、それをご利用ください。銀行口座からお振り込みの場合は、通帳記帳をもって領収の証しとさせていただきます。現金の場合は、これまで通り領収書を発行いたします。

なお、どうしても領収書が必要な場合は、お申し付いただければ発行いたします。皆さまから頂戴した献金を有効に用いさせていただくためにも、この経費削減にご理解くださいますようお願い申し上げます。

2018年8月

日本基督教団事務局総幹事 秋山 徹

天皇の退位および即位の諸行事に関する声明

2019年4月30日と5月1日に、現天皇の退位および新天皇の即位が予定されています。私たちは、これに関する諸行事、とりわけ大嘗祭に国が関わることに、以下の理由により反対の意思を表明します。

1. 天皇の退位および即位に際して行われる諸行事において、本来は皇室の私的宗教行事である大嘗祭まで国の公的な行事として行うことは、国民に対して天皇が特別な存在であるとのイメージを植え付け、天皇の神格化を推し進めるものとなります。
2. 宗教行事である大嘗祭に国が関与することは、日本国憲法が保障する信教の自由および政教分離の原則に反するものです。
3. どのような名目であれ大嘗祭に関わる経費に国費を支出することは、日本国憲法の政教分離の原則に反しています。

私たちは、神以外の何ものをも神としてはならないとの聖書の教えに生きるキリスト者として、天皇の代替わりに関する宗教的諸行事、とりわけ大嘗祭に国が関わることに強く抗議し、反対いたします。

2018年7月9日

日本基督教団総会議長 石橋秀雄

Title: 教団新報4888最終.eca Page:3 Date: 2018/09/11 Tue 14:26:41

◆第1回教師継続教育研修会◆ 教師委員会主催

「説教と牧会―福音を伝える喜び」を主題に

第1回教師継続教育研修会は、8月21日より23日までの三日間に亘って、ハートピア熱海において開催された。

テーマは、牧師にとって最も重要な「説教と牧会―福音を伝える喜び」とした。須田拓牧師（橋本教会・東京神学大学准教授）と柳下明子牧師（武蔵野緑教会・日本聖書神学校教授）には、それぞれの専門の立場から大変豊かな講演をしてもらった。さらに、教師養成制度検討委員会の岡本知之牧師（洛北教会）、小宮山剛牧師（逗子教会）、東野尚志牧師（聖学院教会）には、それぞれ牧会の現場に即して発題してもらった。それぞれの内容を紹介する紙面の余裕がなく残念であるが、講演も発題もとても内容豊かなものであり、貴重な学びと励ましを受けた。

准允10年未満の教師たちが継続して参加することができる

石橋秀雄教団議長と秋山徹教団総幹事の挨拶、佐々木美知夫教団副議長の礼拝説教を通して、日本基督教団がこれから大切にしていかなければならない教師研修会であることが確認された。

合計6回にわたる礼拝説教は、他の説教者の御言葉の説き明かしに励まされ、自身の説教と牧会を見つめ直す機会となった。その他に、2回の分団協議があり、さらに全体会があり、現場での苦労を語り合い、出身神学校や教区の違いを越えて、互いにテーマに即して課題を共有することができた。

会場は、熱海という観光地でもあり、温泉に浸ってリフレッシュし、同労の教師たちとの出会いと交わりが与えられた。

今回の参加者は35名、講師他全体では、54名であった。開会から閉会まで皆が共に集う三日間であった。

参加者には、教団から補助があり、参加費用の負担を軽減することができた。教師委員会では、第2回研修会を来年8月20日から22日まで、同施設で開催することにしている。准允後10年未満の教師には、何度でも参加してもらって、学びと成長の機会をもってほしいと願っている。

（古旗 誠報）

教区議長コラム

◆ 大阪教区 ◆

小笠原 純

古い歌はもう歌い終った

大阪教区は議長であるわたしの思い通りに動いている。わたしの思い通りに動くものではないというわたしの思い通りに（独り言です）。

大阪教区は和歌山県、奈良県、大阪府の143教会・伝道所が集まっている教区です。旧教派的伝統も様々であり、教会のあり方も様々です。大阪教区では1970年日本万国博覧会にキリスト教館出展の是非をめぐって激しい議論が起こり、その後10年間、教区総会を開くことができませんでした。1980年に臨時総会が開かれ、対立していた双方の真理契機を認め合い、今後異なる意見にも耳を傾け、対話を深めていくことを内容とする「3号議案」が採択されました。そうした歴史的な経緯があり、大阪教区では粘り強く、よく話し合うということが大切にされています。常置委員や教団総会議員の選挙も半数連記で行われています。そうした中で必要なのは、自分の思い通りに動くことはないという思いを持つということだと、わたしは思っています。私たちの教団は合同教会なので文化を批判し、いつまでも古い歌を歌っている人たちに、書斎から出てきてもらって、社会がどんな風か、世界がどんな風か見てもらいたいと言っています。

日本万国博覧会から48年、大阪では2度目の日本万国博覧会が行われるかも知れないと言われています。50年間で大きく変わってしまった大阪で、また日本で、「新しい歌を主に向かって歌う」（詩編98編）ということを真剣に考えなければならない時が来ていると思います。

（大阪教区議長）

訃報

山口千代子氏（隠退教師）

18年4月1日逝去、98歳。広島県生まれ。53年神戸神学院卒業。同年より神戸聖愛教会を牧会し、96年隠退。遺族は甥・山口眞理さん。

萩原義春氏（隠退教師）

18年6月26日逝去、69歳。東京都生まれ。99年東京聖書学校卒業。同年より紀伊長島、玉野、都農教会を牧会し、18年隠退。遺族は妻・萩原かつ代さん。

篠田 潔氏（隠退教師）

18年6月28日逝去、94歳。愛知県生まれ。56年東京神学大学大学院卒業。同年より半田教会を牧会し、98年隠退。遺族は息・篠田顯さん。

今井和登氏（隠退教師）

18年7月16日逝去、97歳。朝鮮・忠清南道大田（現韓国・大田市）生まれ。53年関西学院大学卒業。55年より夕張清水沢、福山東、関西学院、芦屋三条、横田相愛、はりま平安教会を牧会し、01年隠退。遺族は娘・椿野宮さん。

鈴木廣德氏（隠退教師）

18年7月18日逝去、86歳。山形県生まれ。57年東京神学大学大学院卒業。同年より富高、宮崎中部、別府不老町、蕃山町、仙台東一番丁、千歳教会を牧会し、06年隠退。遺族は妻・鈴木霧世さん。

山口寿明氏（隠退教師）

18年7月30日逝去、77歳。鹿児島県生まれ。72年農村伝道神学校卒業。同年より中村、筑後福島、川内教会を牧会し、06年隠退。遺族は妻・山口博恵さん。

田尻かおり氏（高崎南教会主任担任教師）

18年8月12日逝去、54歳。島根県生まれ。10年受允、13年受按。10年より仙台松陵、高崎南教会を牧会。遺族は夫・田尻真介さん。

事務局報

補教師登録

森下 滋（2018・7・1受允）

正教師登録

中村和光、野口幸子（2018・6・17受按）

教師異動

番町 辞（担）北原和夫
三軒茶屋就（担）北原和夫
渋谷 辞（担）柳本伸良
華陽 就（主）柳本伸良
熊本草葉町 辞（主）難波信義
〃 就（代）西岡裕芳
須磨 辞（代）西澤他喜衛
〃 就（主）難波信義
香住 辞（代）藤本 真
〃 就（代）小林 聖
首里 就（代）望月 智
沖縄キリスト教学院 辞（教）大城 実
新得 辞（代）杉岡ひとみ
〃 就（主）西間木公孝
キリスト教学校教育同盟 辞（教）磯貝暁成
横浜英和小学校 就（教）磯貝暁成
宿河原 辞（代）飯田輝明
〃 就（主）星野 香
なか 辞（担）北口沙弥香
藤沢ベテル 就（担）北口沙弥香
阿佐ヶ谷 辞（担）加藤眞衣子
花小金井 辞（主）五十嵐成見
〃 就（主）加藤眞衣子
聖学院大学 辞（兼教）五十嵐成見
〃 就（教）五十嵐成見
同志社女子大学 就（教）山下智子
東大阪 辞（主）太田 稔
マラナ・タ 就（担）森喜啓一
吹田 辞（担）稲葉義也
大村 辞（代）竹内款一
〃 就（主）稲葉義也
活水女子大学 辞（教）二瓶淨幸
横須賀学院 就（主）二瓶淨幸
本多記念就（担）森下 滋

教師隠退

水野 穣、鎌田正之、佐野公淳

教会合併

釧路、春採（釧路存続）

教会解散

曙、朝日

伝道所廃止

新宿コミュニティ

教会所在地変更

城之橋 〒910－0859 福井市日之出3－3－30

教会通信先廃止

安来

第5回部落解放全国活動者会議

「どうしたら部落差別はなくなるか」

6月26日から28日、大阪市立信太山青少年活動センターにおいて、第5回部落解放全国活動者会議が開催された。出席者は51名。開会礼拝では斎藤成二活動委員長が担当し、マルコ9章33～38節の箇所で説教された。秋山徹総幹事に開会の挨拶をしていただき、東谷誠運営委員長より今回の活動者会議の目的「どうしたら部落差別はなくなるか」と題し講演された。九州教区、大阪教区、部落解放センターより活動報告を受け、自己紹介を行い、一日目を終えた。

二日目、朝祷会では井殿準運営委員が奨励をし、「地域の取り組み」と題して、部落解放同盟和泉支部の森尚樹支部長と中島駿青年部長に来ていただき、「部落解放運動には夢がある～私たちの部落解放への夢と挑戦～」と題して語っていただいた。お二人が生まれ育った和泉の町の実態を話され、なぜ、人権・解放が必要かを私たち一人ひとりに問われた。そして森支部長の夢と挑戦では「自分の子どもや地域の後輩が差別されない社会をつくる」「住みたい、住み続けたい、誇れる『まち』にする」「様々な人とつながり、支え合える人間関係をつくる」「この地域で一番になる」などの夢と挑戦をするために、人権問題を他人事から自分事へ、マイナスの出会いからプラスの出会いに変えることなどが課題であると述べられた。

午後より自己紹介の第二弾として、鈴木祈実行委員のもと、ワールドカフェ形式をとり「部落差別をなくすためにできる事」をテーマに語り合った。

三日目の全体会議では、昨日話し合ったこと、特に「部落差別をなくすために自分ができる事」を一人ひとり発表し、自らの現場に持ち帰り行動することを宣言した。最後に派遣礼拝を池上信也実行委員が担当し、ルツ記1章1～10節、「ふるさと」の題で説教をし、会議を閉じた。

（平井克也報）

Title: 教団新報4888最終.eca Page: 4 Date: 2018/09/11 Tue 14:26:44

伝道報告

伝道のともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道129年、これからの展望

東北教区・三春教会牧師 **佐々木 威**

山と谷間に囲まれた人口1万8000人の小さな城下町に宣教されて、教会は129年、幼稚園は103年になります。谷間にあった教会は、朝10時に太陽が昇り、2時には隠れて太陽の恵みに乏しく、常駐の牧師と無牧とが2～3年毎に繰り返えされ、無牧の方が長い困難な時代が続きました。知り合ったと思ったら何時の間にか居なくなっていましたと就任時に語られました。放置された教会は、雨もりで屋根の支柱は腐食して釘が無く、トタンが乗っているだけ、ホールは犬猫の遊び場でした。

私は三春教会に神様のご計画を信じて2度目の招きに応えて在任48年になります。1990年に太陽の恵み豊かな2千坪の土地に幼稚園と共に、移転しました。

東日本大震災の被害は、はじめ建物の壁にヒビ割れだけの微少と思われましたが、90メートルに渡って擁壁が傾き隣地に1メートル移動したり、地盤が80センチ沈下して、ガス、水道、トイレ、浄化槽、2個の魚池、兎と象の特製大型コンクリート滑り台等の遊具に6450万円の被害を受けました。教団、教区から630万円、全国の諸教会、施設から377万円、国、県から3759万円の献金や補助金を頂きました。残りの16

礼拝堂（写真上）左手、園庭（写真下）右手の繁みが納骨堂建設予定地

84万円の自己負担で返済の重荷を負っています。

東電の放射能爆発汚染から7年経過していますが、今も幼児には、県外米、飲料水、副食等を家族と別食事を与えて、20年後の健康被害に脅えている家庭があることを忘れないで欲しいと思います。

多くの方々から支援の物品、献金を頂いたことを心より感謝申し上げます。放射能汚染で、教会員の老兄姉4人が県外に家族と共に避難しましたが、帰ることなく召されました。キリスト者が、天父の許に召されると、寺の墓地に埋葬され、何時しか信仰の継承が断絶されてしまいます。保守的で因習の強く根差している地方の教会には、信仰の継承のために、教会墓地はどうしても必要です。

市街化調整地域の境界線上の一画に、所有者の地主も知らない68坪の土地が、幼稚園の隣接にあることを発見して、神様に備えられた聖地として20年前に購入しました。避難した兄姉たちは、納骨堂の建設を遺言として献金をし、全国の128の教会、幼稚園から納骨堂建設の支援金として261万4093円の献金を頂きました。

129年間、主に召された信徒と教会の絆は、皆無です。しかし、墓地があったら教会形成の土台は築かれ、信仰が継承されて、強い球根を残されたと思われます。東京電力の放射能汚染で離散の遺族との音信は不通。

全国諸教会で、納骨にお困りの方がおられたら、三春教会が、神様に召された家族の兄姉としてお迎え致します。罹災者の遺言と祈りの納骨堂の建築が祝福されて用いられるようにお祈り下さい。

教団・教区の業としての教誨活動

第5回日本基督教団教誨師定期総会・研修会（隔年開催）が7月9～10日、オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）を会場に、正会員93名中、14教区32名が集まり、開催された。その歩みは、教団伝道委員会の下での刑務所伝道委員会が1968年の教団機構改正で消滅。その働きを有志による教誨事業協力会が継承し『教誨マニュアル』なども作成、40年にわたり現場の教誨師の働きを支援してきた。

しかし、矯正管区や他宗教との関係から、2009年に関係者が集い教団教誨師会設立準備委員会を組織。翌年、教団教誨師会設立総会を開催。設立目的を「日本基督教団における教誨師の働きを支え合い、宣教の使命を果たす」として事業協力会の働きを継承、全国からの献金や教団伝道委員会の支援を受ける任意団体として今日に至っている。

14教区より出席

昨年度『信徒の友』で教誨師の働きが取上げられ、多くの献金が献げられた。教誨師の働きは個人プレーと受け取られがちだが、関係者は毎回、教団・教区の業として教誨の働きに臨んでいる。

講演では、長く教誨活動に携わる時久忠夫牧師（広畑キリスト教会）から『教誨師の働きを通して』と題し、しみじみと語る体験談に大きな感銘を受けた。現場で孤軍奮闘する者も、教誨師を始める者も、この研修会は大切な学びと意見交換の場となっている。

教区報告では多くの教区で教誨活動支援が進む状況を聞いたが教区間格差はまだ大きいようだ。前総会より正会員3名減となった。働きの継承には様々な支援が必要だ。

総会では加藤幹夫教誨師を議長に、他、運営委員・監事が選出され、「日本基督教団教誨師推薦規定」が決議された。

来年、教誨活動の原点である北海道での研修会予算が承認、運営委員会で準備することとなった。近日上映予定の俳優大杉漣さん遺作映画『教誨師』が紹介され、聖書を抱え受刑者に向う姿に自らの思いを重ねながら散会となった。

（福島義人報）

ひとびと

正村 明江さん

奥能登の教会で主に仕える

輪島塗の雅びな教会看板。木造の小さな会堂に入ると、礼拝堂で『輪島教会100年史』を読みながら、笑顔の正村さんが座っておられた。

奥能登・輪島の地で生まれ育ち、父母ともにクリスチャンホームで育った。両親はペンキ屋、後に民宿を営みながら教会へ。生まれてから今日に至るまで70年間、教会を離れたことがない。子どもの頃は、牧師を招いて家族でよく食事をしたという。仏教が根強い輪島の地で教会役員、毎週のオルガン奏楽（月一度を除く）を奉仕しつつ信仰生活を続けている。

2015年、NHK朝の連続ドラマ「まれ」の舞台として一躍有名になり、奥能登に人が出入りするようになった。昔ながらの朝市のある、明るい港町。新鮮な魚、自然の恵みに囲まれたこの教会で幼児洗礼を授かり、金沢の北陸学院高校に入学。父親は厳格なクリスチャンで、高校時代も必ず礼拝に出席することを勧めた。下宿先の環境のため、涙の生活を強いられたが、高校時代に金沢教会で信仰告白をする。

卒業後は岐阜、春日井、七尾で幼稚園教諭として働くなか、教会につながり続け25歳で輪島に戻ってきた。その後、メサイアをきっかけに始めたコーラスは、今も続けている。地域の小学生のハンドベル指導は20年程前に開始し、いつか教会で伝道のために演奏したいと願っている。

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」、山上の説教と共に、主イエスの十字架上のこの言葉が好きな聖句だと言う。私たちの罪のために十字架にかかり、救ってくださった神様の愛を知ることができるから、と。「私にしかできない輪島教会員としての奉仕、生き方があると思う」、と語る。

およそ100年の歴史をもつ輪島教会を支え続けた誇り高い信仰は、十字架の言葉に支えられた信仰である。

石川県輪島市生まれ。輪島塗・箸屋に働きながら役員、奏楽を務める。輪島教会員。

PCTの救援活動

大阪北部を襲った震度6弱の地震に続いて、岡山、広島、四国の南予地方に災害をもたらした西日本豪雨が続いています。総幹事は教団の救援対策の責任者として、教会の被災状況、教団に何ができるか、直ちに情報収集と対策を講じます。

驚いたことは、わたしたちが動きを始めるや否や台湾基督長老教会（PCT）からメールが届き「見舞金1万ドルを送った」との連絡。すぐに関西各教区を幹事が訪ね、被災状況確認と見舞いを届けました。西日本豪雨の際は、直後の常議員会で救援対策委員会を立ち上げました。その後、直ちにPCTからまた、「200万円の見舞金をもって、7月26日、前総会議長陳明志牧師夫妻と林偉聯救援活動担当幹事が教団を訪ね渡したい」との連絡。矢継ぎ早の熱い申し出に驚かされ感激しました。

PCTは東日本大震災の時、千人以上ものボランティアを仙台・石巻復興のため派遣しました。その後、台湾・花蓮で起こった大地震の救援活動を通して、PCTの救援活動の質の高さと、救援活動参加者が生きがいを見つけた等の声が台湾社会全体に広がって、次の救援活動への参加希望者が教会の内外で起こっているとのことです。

教団も促されて人道支援拠点を設ける準備を進めています。主の霊に導かれた愛の労苦は相乗作用を伴って実りをもたらすことを学んでいます。

（教団総幹事 秋山 徹）